

## 高接ぎ木法を核とした トマト青枯病総合防除技術

トマト栽培の産地化、施設化に伴う連作により、土壌伝染性の難防除病害である青枯病が発生し大きな問題となっています。さらに温暖化による本病被害の拡大も懸念されます。本病の防除法として抵抗性台木品種を用いた接ぎ木栽培が広く普及しています。しかし従来の慣行接ぎ木を用いても青枯病の被害を回避できないことが多く、より防除効果の高い技術の開発が求められています。そこで、(独)農研機構中央農業総合研究センターでは、山口県、新潟県、北海道の試験場および苗生産企業と共同研究を行い、高接ぎ木法を核にしたトマト青枯病総合防除技術を開発しましたので、その成果の概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 高接ぎ木法は、慣行接ぎ木(接ぎ木部位:子葉上)より高い位置(同:第2、3葉上)で接ぎ木する方法です。この苗を用いることで、台木品種の持つ“植物体内での青枯病菌の移行と増殖の抑制能力”を最大限に活用し、青枯病菌による穂木の感染、発病を抑制します(図)。
2. 高接ぎ木法は、夏秋、促成及び抑制作型で慣行接ぎ木よりも高い青枯病防除効果が認められます(写真)。
3. 接ぎ木部位が高いほど顕著な発病抑制効果が認められますので、青枯病汚染程度、作型、地域条件等に応じ、接ぎ木部位の高さの異なる苗を選択する必要があります。
4. 高接ぎ木栽培による生育、収量及び品質等は、作型や栽培地域にかかわらず慣行接ぎ木と同等であり、栽培管理上の問題点はありません。

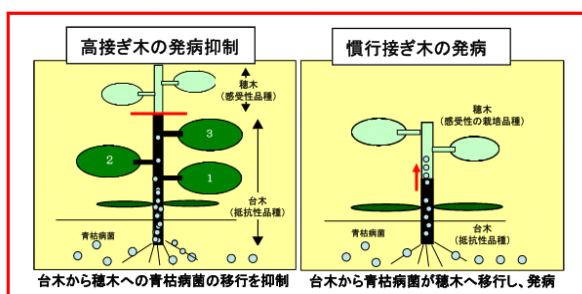


図 高接ぎ木の青枯病発病抑制メカニズム



半促成作型(新潟県)、調査日2011年6月23日(定植2月下旬)

写真 高接ぎ木栽培の青枯病抑制効果

### ☆ 活用面での留意点

1. 民間企業による高接ぎ木苗の生産供給体制が確立されており、全国の生産者が苗を購入することができます。
2. 青枯病の高度汚染圃場では、廃糖蜜や米ぬかを用いた土壌還元消毒等と組み合わせることで高い防除効果を持続できます。
3. 詳細については、中央農業総合研究センター・病虫害研究領域・病害防除担当(TEL: 029-838-8481)へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)